

関西いのちの電話広報誌

No.114号 2002年11月1日発行

< 見出し案内 >

「風」再度、対話理事長今村一之

「生きたい」この気持ちを受け止めて第2回フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」

「相談員ノート」 中国を訪ねて 25期S.F

「歳末募金お願いします！」(財務部報告)

シリーズ「共感ってなに？」(15)「母親になってしまう」長尾文雄

「字遊帳」

「風」再度、対話関西いのちの電話理事長今村一之

7月号の「会話と対話」を読んでくださった、ベテランの相談員の方が、大変興味をもったと言われました。再び、考えてみようかと思った次第です。

最近、新聞に大きく取り上げられた二つの記事のキーワードが対話であったと思われます。第一は、小泉首相の訪朝、第二は、長野県知事選挙です。

8月30日に小泉首相が、9月17日に朝鮮民主主義人民共和国を訪問することを表明しました。その中で「直接、首脳同士の対話を通じ、日朝間にわたる数多くの諸問題解決の糸口を見出したい」と語ったとあります。

9月1日に行われた長野県知事選挙で、田中康夫氏が選ばれました。実質的な対立候補であった長谷川弁護士は、「対話による県政」を掲げたと報じられています。当選した田中知事は、県議会に対し「私が謙虚に頭を垂れて真の対話をしていかねばと思っている」と述べています。

世界政治も地方政治にも、対話の重大性について様々に考え、行っているのが今の時代といえます。

再度、平田オリザ氏の助けを借りると、『21世紀のコミュニケーションは、「伝わらない」ということから始まり、対話の出発点はここにしかない。その理由は、私とあなたは違う。私とあなたは違う言葉を話している。そして、私はあなたが分からない。さらに私が大事にしていることをあなたも大事にしてくれているとは限らない。それでも私たちは、お互いに理解しあえる部分を少しずつ増やし、この社会で、また地球の中で生きていかねばならない。』

日夜の電話相談でこのことをひしひしと感じている相談員の方々が、対話に思いを致し、より良い相談をなさるよう心から願っております。

【相談員ノート】 中国を訪ねて 25期S.F

今年、7月中旬、私用で、中国を訪ねました。中国を訪れるのは初めてでしたが、知人たちと行ったので、不安とかはなく、むしろ、興味と期待のほうが強かったのかもしれない。

上海とハルピンに行きましたが、両者の違いをととも感じました。上海は、急成長している国際都市、高層の建物がとても多く、人の多さ、活気は、今の日本には感じられないものでした。その反面、ハルピンは田舎で、人々の温かさやのどかさを感じました。

また、様々な所で食事をしましたが、昼間の2～3時間ゆっくりと食事をしたり、ビールを飲むことも

当たり前のようにあり、日本とは時間感覚が異なると感じました。それだけに、「いったん友だちになると、とても暖かく迎えてくれる国柄ですよ」と知人の方に言われました。仕事とプライベートの態度・顔が全く違うようです。

今回の旅行で、私は今、中国は成長・発展の真っ只中にあるということを実感しました。とにかく、活気があることに驚きました。このままいくと、数年後、数十年後にはいるんな面で、日本は追い越されるように思います。現地で商売をしている日本人から「今、中国は、ドリームの国ですよ」と言われたのがとても印象に残っています。これからの中国の変化に注目したいと思います。

「生きたい」この気持ちを受け止めて第2回フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
事務局長八尾和彦

フリーダイヤルナンバー = *0120-738-556* 2002年12/1(日)0:00~12/7(土)
24:00(24時間体制)

2001年の日本における自殺者数は、3万1042人(警察庁発表)。これで、年間3万人を超える自殺者数は、4年連続の記録となった。このような状況の中で、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が、来る12月1日(日)0:00~7日(土)24:00の期間、全国いのちの電話のネットワークにより24時間体制で実施される。これは、厚生労働省の補助事業として、昨年12月初めて試みられ、今回はそれを踏まえての2回目の実施となる。

昨年の場合、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」の全国総受信件数は、1週間で9347件(関西いのちの電話499件)、その内、自殺念慮のある受信件数が3037件(同162件)で、総受信件数の約30%を占めた。これは、比率的には通常の場合の3倍に相当する。40~50代の男性が増えているのも特徴であった。また、自殺予防いのちの電話の広報活動をとおして、この機会に初めていのちの電話を知った人も少なくなかった。

関西いのちの電話では、2台のフリーダイヤルを設置し、3人の相談員体制を組んで、延べ110名の相談員と8名のスーパーバイザーがこれに参加した。日ごろの相談電話の中でも、自殺念慮のある電話がかかってきているとはいえ、「自殺予防」を前面に出して電話を受けるとなると、相談員の気持ちの中に、大きな不安と緊張が募っていたことは否定できなかった。

ところが、いざフリーダイヤルの電話相談が始まり、受話器に耳を当ててコーラーの声を聴いていくうちに、実施前の不安のようなものは徐々に消え去り、いつものように聴き入っているようであった。「自殺予防いのちの電話」実施のために事前の相談員研修・オリエンテーションをおこない、それなりの準備はしていた。

しかし、相談員が平常心を保ちつつ、ある緊張感をもって、すぐさまコーラーに対応して聴けるのは、日頃の絶え間ない相談電話による修練の賜物以外の何ものでもないことを実感した。コーラーからは、「もう生きているのがしんどい」「苦痛である」「絶望的」「なんのために生まれてきたのか」「目先、まっ暗」などと、個々の事情は別として「死にたい」と訴えてくる。弱々しい声で、泣きじゃくりながら、時には怒りながら、最後のエネルギーを使い果たすかのように訴えてくる。

ところで、コーラーが、このように電話で「死にたい」と訴えてくるのは、なぜだろうか。今死ぬとばかりに、思いの限りをふりしぼって電話をかけてくるのであるが、この裏には、それとは逆に「生きたい」という強い願望が根底に潜んでいるのではないだろうか。「わたしを受け止めてくれる人がいない、受け入れてくれる人がいない、誰も聴いてくれない、全てに見離された、裏切られた、しかし、せめて電話でいいから、今聴いてほしい、ひとりのままで終わりにたくない、死にたくない、本当は、生きたいんだ！」という声が聞こえてくるようである。この世に生を受けた人間、いや、人間だけではない、おそらくはこの地球上に生きとし生けるもの全ては、本能として生き続けたいと願っているのではないか。

まもなく、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が始まる。今年も、初めていのちの電話を知って、電話をかけてくる人もいよう。表面上の言葉では「死にたい」と訴えてはいるが、その言葉の奥底にあるコーラーの「生きたい」という気持ちを受け止めていくことが、いのちの電話の務めであり、そこに「自殺予防」としての「いのちの電話」の存在意義があるのではないかと思う。

【歳末募金お願いします！】「上半期の寄付金達成率 33%」

関西いのちの電話の収入の50%は賛助会費・寄付金によって、30%は、事業収入(チャリティコンサート・バザールなど)によって賄われています。第2種社会福祉法人であるため公的な助成金を受けることはできず、それに準ずる補助金は6%に留まっています。したがって、いのちの電話の活動について多くの方々にご理解をいただき、みなさまに「資金ボランティア」として、いのちの電話の活動にご参加くださいますことを、わたしたちは願っています。

別表は、2002年度予算と上半期の収入状況を示したものです。2002年度は1800万円の予算を計上しています。上半期の収入状況は51%(表2)ですが、その中で寄付金が33%と大変低迷しています。賛助会費は68%ですが、例年、下半期は上半期ほど伸びませんから、実際にはさらに賛助会員を増やしていかなばなりません。

そこで、まもなく歳末募金の時期を迎えます。社会情勢は相変わらず厳しく、年末の時期で大変恐縮に存じますが、ひとりでも多くの方々にご賛同いただき、予算額200万円が達成できますよう、みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

(表1) 支出

支出名目	予算
研修・相談活動	2,500,000
相談員養成	2,000,000
広報費	600,000
印刷費	900,000
通信費	600,000
賃貸料	3,300,000
水道光熱費	600,000
人件費	5,800,000
社会保険	600,000
交通費	500,000
その他	600,000
計	18,000,000

(表2) 収入

	予算	9月末累計	達成率
補助金	1,180,000	1,000,000	85%
賛助会費	4,200,000	2,870,000	68%
寄付金	5,050,000	1,670,000	33%
事業収入	6,300,000	3,500,000	56%
雑収入	1,270,000	130,000	10%
計	18,000,000	9,170,000	51%

(表3) 寄付金(表2 寄付金の内訳)

	予算	9月末累計	達成率
寄付金	2,150,000	820,000	38%
夏期募金	900,000	830,000	92%
歳末募金	2,000,000	20,000	1%
計	5,050,000	1,670,000	33%

賃貸料・水道光熱費・人件費の中には、養成・研修・相談活動費の一部も含まれています。

財務部

【共感ってなに？(15)】「母親になってしまう」

「20歳から30歳代の女性から電話がかかってくると、私はすぐにかけ手の母親になって、言って聞かせないと、しっかりお説教していますね」と、ある相談員がスーパービジョンで気づきました。

電話という短い時間のなかで、かけ手と聞き手の間にあたかも肉親や恋人のような心理的関係が生まれることがあります。

かけ手がかつて母親や父親、配偶者や恋人などに抱いていた感情や態度を無意識のうちに聞き手にむけてくることがあります。会話が深まるなかで、聞き手を母親のように感じて甘えてくる、カレシや恋人であるかのように話し掛け、要求するようなこともあります。

これを「転移」と言っています。愛着、思慕、性的衝動などの感情がくっついてきます。

聞き手自身もこのような感情や態度を持つ場合がしばしばあります。これが「逆転移」です。

この相談員は、若い女性の声を聴いただけで、母親になってしまうのです。加えて訴えの内容が、「未婚で妊娠している」「中絶を考えている」「母親が信じられない」などとなると、いっきに母親になってしまうのです。

この転移・逆転移はしばしば起こることでいけない現象ではありません。大切なことは聞き手自身が電話のなかで母親になっている自分に気づくこと、かけ手はどのような聞き手を必要としているのかを一呼吸いれて点検することです。多くの場合違うのですが、そのときは「私はすっかりあなたの母親になっていたようだけれど、あなたが必要としている聞き手は母親ではなかったのよね。」などと関係の修正をすることです。

長尾文雄

チャリティーコンサート報告「有名アリアで綴るオペラの楽しさ」

8月2日金曜日、いずみホールに於いて日下部吉彦氏の司会で田中勉氏・田中友輝子氏によるチャリティコンサートが行われました。

当日は、夕方突然降り出したどしゃぶりの雨に、スタッフ一同は、来場の方々の足元を心配しましたが、開場一時間前にはすっかり上がりホッとしました。

蒸し暑さの中、雨と一緒に観客もたくさん降り込んでいただければいいなと思いながら、緊張した気持ちで開場時間を迎えました。

コンサートは日下部氏の楽しいお話と、田中勉・田中友輝子両氏のすばらしい歌声。そして、スタッフの尽力により大盛況のうちに無事終了することができました。一人一人のスタッフがそれぞれの観点で取り組みながら、お互いの足りない部分を補い合うことで、楽しく充実したイベントができるのだと感じました。

最後になりましたが、ご協力頂きました大勢の皆様方に心よりお礼を申し上げます。そして、楽しい経験をありがとうございました。

広報・企画チーム

【字遊帳】「活」29期K・M

記憶に新しい2002年FIFAワールドカップで、日本中がサッカーに沸いた。不況、デフレ、リストラなど暗いニュースばかりの中で、スポーツを通じて活気溢れ、こんなにまだ元気な国だったんだということを感じた。日本選手がシュートを決めた場面では、な

ண்டும்同じ映像を繰り返し見せられるが、イキイキとした選手の表情や応援サポーターを見ていると、元気がもらえそうな気がして、ついつい見てしまった。

あらためて、メディアの影響力について考えさせられた。

あらゆるジャンルの中からテレビという箱の中で起こっている1コマの場面を、受け手が想像を膨らませて映像で見る(あるいは見せられる)、送り手であるメディアは十分にその思い込みを計算して映像を流しているのであろう。だからといって、送り手がすべてにおいて、作為的に操作しているというのではないが、受け手が「批判的」に理解し、気づく能力を身に付ける必要があるのではないだろうか。

ここでいう「批判的」というのは、良識を持った偏りのない理論的な考えである。

良いことも悪いことも含めて、ワールドカップは終わった。映像を通じて、スポーツを観戦し、イキイキとできた瞬間を味わえたことは心にとめておきたい。

< ありがとうございます >

大阪府共同募金様 100 万円 (赤い羽根共同募金)

相談電話受信件数

受信月	6月	7月	8月	9月
受信件数	1,704 件	1,582 件	1,793 件	1,745 件
相談員数 (延)	471 人	433 人	477 人	471 人

30周年にむけて(1)「関西いのちの電話は、2003年9月25日創立30周年を迎えます。」

最近の社会現象を見ていると、それは、とうにフィクションを超えていることが多い。

そのような中で、一本の電話は、現実と非現実をたやすく交錯させる危険性を秘めている。

そのとき、聴き手とコーラとを結ぶのは、想像力ではないだろうか。

個人の価値観の多様化や、急激な社会変化に対応する場合、聴き手の資質として、想像力の占める比重は、ますます大きくなると思われる。

想像力の豊かさは、いのちの電話の未来を、左右する要素の一つになるかもしれない。

広報・編集チーム

【編集後記】Y.U

コスモスの花が風に揺れて美しい。雨風に倒れてもまた頭を持ち上げそこに清楚で可憐な花を咲かせる。長い茎は曲がりくねり、葉は花の周りだけ残してすぐ下まで色が変わってしまっている。

およそ似つかわしくない花と茎。しばし心をうばわれていた。

社会福祉法人関西いのちの電話

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL.06-6308-6868 FAX.06-6308-6180

発行人今村一之

編集広報編集チーム